

事務連絡
令和 2 年 8 月 7 日

各

都道府県
保健所設置市
特別区

 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課

有毒な野生キノコによる食中毒の注意喚起について

例年、夏の終わりから秋にかけて、有毒な野生キノコを食用キノコと誤認して採取、喫食したことによる食中毒が多く発生していますが、本年は別添 1 のとおり 6 月から既に発生し、死亡事例も報告されています。

つきましては、これからお盆の長期休暇を迎えることを踏まえ、毒キノコによる食中毒を未然に防止するため、食用のキノコと確実に判断できないキノコ類の採取、譲渡、販売及び喫食を行わないよう、改めて消費者及び食品関係事業者に対して、より一層の注意喚起及び情報提供を行うようお願いいたします。

なお、厚生労働省では、ホームページにおいて「自然毒のリスクプロファイル」として毒キノコに関する情報を提供するとともに、毒キノコに関するリーフレット等（別添 2）を掲載しています。また、厚生労働省の Twitter においても秋季が終了するまでの間は、毎週、毒キノコの注意喚起を行っておりますので御活用ください。

（参考）厚生労働省ホームページ

○自然毒のリスクプロファイル

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoushokuhin/syokuchu/poison/index.html

○毒キノコによる食中毒に注意しましょう

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoushokuhin/kinoko/index.html

○厚生労働省の Twitter

<https://mobile.twitter.com/MHLWitter>



別添1：令和2年に速報があった有毒な野生キノコによる食中毒事例
(令和2年8月5日現在)

【事例1】

発生年月日	令和2年6月30日(火)
発生場所	北海道 飲食店
原因食品	当該施設が6月30日(火)に提供した「キノコパスタ」
概要	自生していたキノコ(種類不明)を調理し、提供した。
患者	3名
主な症状	手足の痺れ、視覚の異常、散瞳、嘔気等

【事例2】

発生年月日	令和2年8月2日(日)
発生場所	栃木県 家庭
原因食品	キノコの油炒め
概要	患者の家族が山林で採取した野生のキノコ(種類不明)を、自宅で調理して患者2名が喫食したところ、2名ともに食中毒症状を呈した。2名のうち、1名は翌日に容態が急変し死亡した。
患者	2名
主な症状	嘔吐、下痢、死亡者については多臓器不全



毒キノコに要注意

別添2

夏の気温が高く、その後の適度な降雨があり、朝晩の気温が低下すると、多くのキノコが発生することが考えられます。

⚠️ **毎年、有毒キノコを原因とする食中毒が発生しています。**
食用のキノコと確実に判断できないキノコは

絶対に採らない！ 食べない！ 売らない！ 人にあげない！

⚠️ **キノコを食べて体調が悪くなったら、すぐに医師の診察を！**

ツキヨタケ



【中毒症状】
ツキヨタケは食後30分～1時間程度で嘔吐、下痢、腹痛などの中毒を起す。

【間違えやすい植物】

- ・ヒラタケ
- ・ムキタケ
- ・シイタケ

クサウラベニタケ



【中毒症状】
クサウラベニタケは食後20分～1時間程度で嘔吐、下痢、腹痛など消化器系の中毒を起す。唾液の分泌、瞳孔の収縮、発汗などの症状も現れる。

【間違えやすい植物】

- ・ウラベニホテイシメジ
- ・ホンシメジ
- ・ハタケシメジ

テンダタケ



【中毒症状】
テンダタケは食後30分程で嘔吐、下痢、腹痛など胃腸消化器の中毒症状が現れる。そのほかに、神経系の中毒症状、瞳孔の収縮、発汗、めまい、痙攣などで、呼吸困難になる場合もあり、1日程度で回復するが、古くは死亡例もある。

ニセクロハツ



【中毒症状】

ニセクロハツは食後30分から数時間程度で嘔吐、下痢などの胃腸、消化器系の中毒症状を示す。その後18-24時間ほどで横紋筋溶解が原因と考えられる全身筋肉痛、呼吸困難を示し、死亡に至ることもある。